（様式１・非住宅Ｂ）

令和　　年　月　日

国土交通大臣　斉藤　鉄夫　殿

サステナブル建築物等先導事業（省ＣＯ２先導型）

提案申請書

（令和４年度（第１回）募集）

[建築物（非住宅）・中小規模建築物部門]

以下の内容により、サステナブル建築物等先導事業（省ＣＯ２先導型）の提案を申請します。

プロジェクト名　：

提案事業の種類

|  |  |
| --- | --- |
| 提案事業の種類 | 提案事業 |
| ①住宅・建築物の新築 | ◯ |
| ②既存住宅・建築物等の改修 |  |
| ③省ＣＯ２のマネジメントシステムの整備 |  |
| ④省ＣＯ２に関する技術の検証（社会実験、展示等） |  |

（代表提案者）

　　提案団体名

　　代　表　者

（様式２－１・非住宅Ｂ）

フェイスシート － その１：補助事業の実施体制（Ａ４・１枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 1 提案者 | （提案者の構成員全員について、法人その他の団体の場合には法人名・団体名、個人の場合には氏名を記載してください。） |
| 2 事務連絡先（その１） | 所属 |  |
| 役職名 |  |
| 担当者氏名 | **提案者の構成員**において、平日（月～金）に確実に連絡がとれる連絡先を**必ず２つ**記入してください。・主たる連絡先を（その１）に記載してください。・所属欄は、法人名と部署名等を記載してください。・住所欄は、**郵便番号と住所**を記入してください。・E-mailアドレスの記載ミスにご注意ください。（全角半角にも注意） |
| 住所 | (郵便番号) 〒　　－　　　(住　　所)  |
| 電話 |  |
| FAX |  |
| E-mail |  |
| 3 事務連絡先（その２） | 所属 |  |
| 役職名 |  |
| 担当者氏名 |  |
| 電話 |  |
| E-mail |  |
| 4 実施体制図 | 【補助を受ける者(予定者） 】　□提案者と同じ　　□提案者と異なる【提案者以外の関係者の有無】　□なし　　　　　　□あり　①複数の提案者による共同提案の場合②提案者と補助を受ける者が異なる場合③補助事業の提案にあたって作業協力者（提案者の構成員以外の建築設計事務所、建設　　事業者、エネルギー事業者等）がいる場合上記の場合には、「提案者、補助を受ける者、作業協力者等」の関係を実施体制図として記載してください。　なお、審査にあたり、ヒアリング審査を行うことがあります。ヒアリング時の出席者はこの実施体制図に記載される法人・団体等に限りますので、留意してください。 |

（注１）□の部分は、■により項目を選択してください。

（様式２－２・非住宅Ｂ）

フェイスシート － その２：提案概要（Ａ４・１枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 5 補助事業期間 | 2022年度　～　　　　年度（原則として４年以内注２） |
| 6 事業費 | 事業費(総額)注３　　　　　　百万円補助金の額(総額)注３　　　　百万円 |
| 7 他の補助金 の有無 | □なし□あり（□交付決定済み　□申請中又は申請予定） |
| 8 事業の対象となる建築物の概要 | 区分 | ■新築 |
| 名称・所在地 | 名　　称： |
| 住　　所： |
| 規模・用途 | 棟　　数：　　　　　　　棟 |
| 延べ面積：　　　　　　　㎡階　　数：地上　　階／地下　　階 |
| 建物用途（該当するものを選択してください）□事務所　□ホテル　□病院　□百貨店　□学校　□飲食店□集会所　□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 設計者・施工者 | 設計者：　　　　　 |
| 施工者： |
| 工期 | 着　工：（西暦）　　年　　月竣　工：（西暦）　　年　　月 |
| 9 提案の概要 | Ａ．プロジェクト全体の概要 |
|  | Ｂ．提案のアピールポイント①②・・ |
|  | Ｃ．省エネルギー性能／環境効率の評価結果①ＢＥＩ（該当するものを選択して数値を記載してください）□計算値（ＢＥＩ＝　　　　）　　□目標値（ＢＥＩ＝　　　　）②環境効率の評価結果（※CASBEE活用の場合）　■ランクＳ：ＢＥＥ＝　　　　　※評価結果を様式４－２に添付してください |

（注１）□の部分は、■により項目を選択してください。

（注２）４年を超える事業として提案する場合は、様式３に全体工程に関する説明を記載してください。

（注３）様式６（標準単価方式の場合は様式８）の該当欄の額と一致するように記載してください。
（複数年度に渡る場合は全年度の合計額）

プロジェクト全体の概要を簡潔に記載してください）

（注４）複数棟の新築提案、改修、マネジメント及び技術の検証を提案する場合は、一般部門として応募してください。

　「あり」の場合、「様式２－２」に区分け等を記載してください。

（様式２－２別紙・非住宅Ｂ）

建築物の省ＣＯ２に係るリーディングプロジェクトとしてのアピール点を箇条書きで簡潔に記載してください

他の補助金を活用する場合の区分（Ａ４・１枚）

※他の補助金を活用する場合に提出

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
|  　本先導事業以外に、提案事業について、現在、国・地方公共団体等から受け入れている補助金若しくは申請中、申請予定の補助金等がある場合、下記を記載してください。・制度名・申請状況（交付決定、申請中、申請予定の別）・補助金額・本提案事業と区分**＜注意事項＞****※本事業の補助対象となる部分について、重複して他の補助金等を活用することはできません。****※他の補助金の対象となっている場合、又は申請を行っている若しくは申請を行う予定がある場合は、補助対象となる部分を明確に切り分けて申請する必要があります。** |

（様式３・非住宅Ｂ）

プロジェクトの全体概要（Ａ４・最大２枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| １．建築概要　プロジェクトの実施場所、建物の延べ面積・階数、用途、建物の全体の姿を示して下さい。２．事業スケジュール　プロジェクト全体のスケジュールと提案する省ＣＯ２技術・取り組みの事業スケジュールの関係が分かるように、基本設計、実施設計、着工、完了等のスケジュールを記載してください。３．プロジェクトの概要　プロジェクトの全体概要が分かるパース等の図を示し、図の中に、吹き出し等で、導入する省CO2の取り組み概要を記述してください。また、省ＣＯ２の取り組みについては、補助対象として申請する項目がわかるように明示してください。＜注意事項＞本様式に記載いただくパースや断面図などは、採択後に、プレス発表などの公表資料で使用することがあります。本様式に記載する図表などは、プロジェクト概要がわかりやすい内容としてとりまとめていただくともに、公開資料等での使用を承諾いただける内容としてください。４．本事業の実施によって期待される波及効果・普及効果　提案する省ＣＯ２プロジェクトを実施することで期待される省ＣＯ２技術等の波及効果・普及効果を示してください。また、提案する省ＣＯ２プロジェクトとして、省ＣＯ２技術の波及や普及に向けた取り組みを実施する場合、取り組みの内容を具体的に記載してください。 |

（様式４－１・非住宅Ｂ）

審査基準に関する事項－１ 省エネ性能・導入する省ＣＯ２技術等の内容（Ａ４・１枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 省エネ性能 | ＢＰＩ |  | □計算値□目標値 | 設計値：　　　　　　　　[ＭＪ/㎡・年]基準値：　　　　　　　　[ＭＪ/㎡・年] |
| ＢＥＩ |  | □計算値□目標値 | 設計値：　　　　　　　　[ＧＪ/年]基準値：　　　　　　　　[ＧＪ/年] |
| 省エネ性能の計算に反映される主な省エネ技術 | 外皮 |  |
| 空調 |  |
| 換気 |  |
| 給湯 |  |
| 照明 |  |
| ＥＶ |  |
| その他 |  |
| その他の取り組み | （省エネ性能計算に反映されない技術、エネルギーマネジメント等） |
| （波及、普及につながる取り組み等） |

(注１) ＢＰＩ及びＢＥＩの計算に反映される技術と反映されない技術に区分して記載してください。なお、補助対象として申請する取り組みに限らず、代表的な省エネ技術、取り組みを記載してください。

(注２) 補助対象として申請する項目は、●を付けて表記してください。（標準単価方式の場合は区分不要）

（様式４－２・非住宅Ｂ）

審査基準に関する事項－２　建築物の環境効率の評価結果等（新築のみ）

（CASBEE活用）

※CASBEEを活用しない場合は、建築物の環境効率とLCCO2の計算結果を別に作成してください。

|  |  |
| --- | --- |
| CASBEE評価ツール | □CASBEE-建築(新築) 2021年SDGs対応版□上記以外のCASBEE（　　　　　　　） |
| CASBEE評価書作成者（CASBEE評価員が作成した場合） | 登録番号：　　　　　　－　　　氏名： |

※“CASBEE評価にてLCCO2計算を行わない場合”は、別にLCCO2の計算結果を作成してください。

（ＣＡＳＢＥＥ評価結果シートを添付してください。別添可。）

※１ CASBEE評価結果は、「BEEの数値」および「ライフサイクルCO2のグラフ中に表示される参照値に対する割合の数値（％）」が読み取れるものを添付してください。

※2 LCCO2算出にあたって標準計算以外を行う場合は、別紙にその条件、算出結果を記載して添えてください。

※3 未確定の項目を仮定して計算する場合、別紙に前提とした条件を記載して添えてください。

（様式４－３・共通）

審査基準に関する事項－３　省ＣＯ２効果に関する説明

（Ａ４・最大２枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 事業全体の省ＣＯ２効果 | ＣＯ２排出量（比較対象：ａ）ton-CO2/年 | ＣＯ２排出量（提案事業：ｂ）ton-CO2/年 |
| ＣＯ２排出削減量（ｃ＝ａ－ｂ）ton-CO2/年 | ＣＯ２排出削減率（ｃ÷ａ×100）％ |
| ■補助対象として申請する省ＣＯ２技術の内容と費用対効果　補助対象として申請する省ＣＯ２技術等について、それぞれの特徴及び省ＣＯ２効果（又は省エネルギー効果）と費用対効果を記載してください。　費用対効果を算出するにあたっては比較対象となるものを明示し記載してください。また、ＣＯ２排出量を計算した根拠（排出係数など）を記載してください。 |

（様式５・共通）

ＣＯ２排出削減効果実証に関する計画書

（Ａ４・１枚）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 建物全体及び主たる省ＣＯ２技術の効果実証＜必須事項＞ | 計測期間 | （西暦）　　　　年　　　月　～（西暦）　　　　年　　　月 |
| 計測対象 | ＜建物全体のエネルギー消費量＞（該当するものを■で選択）□電力　　□都市ガス　　□ＬＰガス□その他　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）＜主たる省ＣＯ２技術＞（技術名を記載してください）　①　②　③　・　・　・ |
| 効果実証体制 | （計測方法、計測・効果実証体制などをわかりやすく記載してください）  |
| ＜その他のＣＯ２排出削減効果実証計画＞　上記のほか、提案プロジェクトについて、ＣＯ２排出削減実証としてエネルギー計測等を行う場合、下記の内容をわかりやすく記載してください。（１）計測目的、（２）計測対象、（３）計測方法、（４）計測体制、（５）計測期間（６）その他特記すべき事項 |

（様式６・非住宅Ｂ）

事業計画（Ａ４・１枚）

※次頁の「記入上の注意事項」を確認し、補助金の限度額等に注意して、記載してください。

（単位：千円）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 実施年度（西暦） | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 総額 |
| (1)設計費 | A |  |  |  |  |  |
| (うち補助対象) | a  |  |  |  |  |  |
| (補助金の額)  | ① = a/2 |  |  |  |  |  |
| (2)建設工事費 | B |  |  |  |  |  |
| (うち補助対象) | b |  |  |  |  |  |
| (補助金の額)  | ② = b/2 |  |  |  |  |  |
| (3)マネジメントシステム費 | C |  |  |  |  |  |
| (うち補助対象) | c |  |  |  |  |  |
| (補助金の額) | ③ = c/2 |  |  |  |  |  |
| (4)技術の検証費 | D |  |  |  |  |  |
| (うち補助対象) | d  |  |  |  |  |  |
| (補助金の額) | ④ = d/2 |  |  |  |  |  |
| (5)小計 | E = A+B |  |  |  |  |  |
| (うち補助対象の小計) | e = a+b |  |  |  |  |  |
| (補助金の額の小計） | ⑤ =①+② |  |  |  |  |  |
| (6)附帯事務費 | ⑥ = ⑤×2.2％以内 |  |  |  |  |  |
| (7)補助金の額 | ⑦ = ⑤+⑥ |  |  |  |  |  |
| (8)補助金の額（合計） | ⑧ |  |  |  |  |  |

＜事業計画（様式６）の記入上の注意事項＞

(注１) 事業年度が複数年度にわたるプロジェクトの場合は、各年度について記載してください。

(注２) 中小規模建築物部門は、新築のみが対象です。改修、マネジメントシステムの整備、技術の検証を提案する場合は、一般部門として応募してください。

(注３) 消費税の額を除いた額として記載してください。

(注４) 各項目の「うち補助対象」の欄は提案する先導的な省ＣＯ２技術に関する工事費の合計で、様式７－１の該当欄と一致するように注意してください。

(注５) 表中の金額は千円単位として記入してください。
また、「補助金の額」の計上にあたっては、各年度、各項目で千円未満切り捨てとして算定し、金額を記載してください。

(注６) 建築物（非住宅）の新築事業において、「(2)建設工事費」に関する補助金の額には限度が設けられています。

**『(2)の「補助金の額（②）』が、『(2)建設工事費(B)×５％以内の額』**となるように「補助対象費用」を計上してください。

(注７) **補助金の総額は５億円が限度額**となります。
**『(8)補助金の額(合計)（⑧）』**について、総額の欄は、下記のいずれか低い額を記載してください。
　・**『５億円』、『(7)補助金の額(⑦)』**
また、『(7)補助金の額(⑦)』が限度額を上回る場合は、限度額の範囲内で年度別の『(8)補助金の額(合計)』を計上してください。

(注８) 次年度以降の予算によって、採択通知に記載されている補助金の額が交付できない場合がありますので留意してください。

(注９) 附帯事務費は、採択後の補助金交付の手続きにおいて、附帯事務費として申請し、認められた経費について、領収書等での支払いを証明していただくことで支払われるものです。

(注10) 設計費について補助金を申請する場合、申請する費用の説明を「様式７－４」に記載してください。
なお、設計費において、通常の実施設計費等は補助の対象となりません。

（様式７－１・非住宅Ｂ）

補助対象となる部分の経費の内訳（新築）（Ａ４・１枚）

（単位：千円）

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
|  | 補助対象部分の経費の内訳 |
| 実施年度（西暦） | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 総額 |
| (1)設計費（補助対象部分） |  |  |  |  |  |
| ◯◯費 |  |  |  |  |  |
| ××費 |  |  |  |  |  |
| 合計(a) |  |  |  |  |  |
| (2)建設工事費（補助対象部分） |  |  |  |  |  |
| 先導的提案１○○○に関する工事費 |  |  |  |  |  |
| 　設備費 |  |  |  |  |  |
| 　工事費 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 先導的提案２×××に関する工事費 |  |  |  |  |  |
| 　設備費 |  |  |  |  |  |
| 　工事費 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 合計(b) |  |  |  |  |  |

(注１) 経費の内訳については、提案された先導的な取り組みを実現するための部分の取り組み箇所ごと、積算根拠等も含め詳細に記述してください。

(注２) 積算根拠は、プロジェクトを行うためにどのような建築構造又は設備の整備等が必要となるのか明らかとなるように記載してください。

(注３) 記載する金額は、補助率を乗ずる前の補助対象費用の額です（様式６のa,bの内訳です）。

(注４) 事業年度が複数年度にわたるプロジェクトの場合は、各年度について記載してください。この場合、主な実施工程の項目毎に記載してください。

(注５) 消費税の額を除いた額で記載してください。

(注６) 環境効率、省エネルギー性能の表示に係る費用は、それぞれ「申請のための費用」と「表示のための費用」に分けて、「(1)設計費」の欄に記載してださい。

（様式７－４・非住宅Ｂ）

補助対象となる部分の経費の内訳（設計費）（Ａ４・１枚）

※様式７－１において「設計費」を申請する場合、内容を記載して提出してください。

※また、「設計費」として、省ＣＯ２設計に関する設計費を申請する場合は、内容に加えて、当該費用が必要となる理由も明記してください。

※該当する費用を申請しない場合は、本様式の提出は不要です。

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| 様式７－１設計費の内容 |  |

（様式８・非住宅Ｂ）

標準単価方式による事業計画（Ａ４・１枚）

※非住宅・新築プロジェクト、延べ面積2.000㎡未満に限り適用可

※ＢＥＬＳ評価が★★★★（４つ星）の場合は「一般部門」で応募してください。

|  |  |
| --- | --- |
| プロジェクト名 |  |
| ＢＥＬＳ評価の建物用途 | □非住宅用途1（事務所等、学校等、工場等）□非住宅用途2（ホテル等、病院等、百貨店等、飲食店等、集会所等） |
| ＢＥＬＳ評価 | ランク：■★★★★★（５つ星）種　別：□計算値（ＢＥＩ＝　　　　　）　□目標値（ＢＥＩ＝　　　　　　） |

（注１）□の部分は、■により項目を選択してください。

（注２）ＢＥＬＳ評価の欄にはＢＥＩの数値も記入してください。

１．標準単価に基づく補助金の額の算定

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ＢＥＬＳ★★★★★（５つ星） | ＢＥＬＳ★★★★（４つ星） |
| 延べ面積 [㎡] 　　　　　(a) |  |  |
| 標準単価 [千円] 　　　　(b) | 38 |
| 補助率　　　　　　　　 　(c) | 1/2 |
| 補助金の額 [千円](a)☓(b)☓(c) ＝　① |  |

（注）補助金の額は、千円未満切り捨てとして算定してください。

２．標準単価方式における補助限度額の算定

|  |  |
| --- | --- |
| 総事業費 [千円] 　 (ｲ) |  |
| 係数　　　　　　　　　　 (ﾛ) | 0.035 |
| 補助限度額 [千円](ｲ)☓(ロ) ＝ ② |  |

（注）補助限度額は、千円未満切り捨てとして算定してください。

３．補助申請額

|  |  |
| --- | --- |
| 補助申請額 [千円]（①と②のいずれか小さい額） |  |

（注）「１．補助金の額（①）」と「２．補助限度額（②）」の小さい額を記入してください。